

小地域懇談会を振り返って

今年度もおよそ300人の推進者のみなさんにお世話になり、10月中旬から12月の下旬まで「今よりちよこつと生きやすくなるわたしの視点・社会の見方」をテーマに、小地域懇談会を行いました。

区長さんや自治会長さん、社会教育推進員のみなさんには、大変ご尽力をいただき、ありがとうございました。

今年度は「第三次大山町男女共同参画プラン」を策定する年であり、男女共同参画を内容にプログラムを進めていただきました。

次に、参加者の方からいただいたアンケートの結果について、概要をお知らせします。(12月20日までの集計です。)

〈参加者について〉

男女比を見ると「男性62%、女性33%（未記入5%）」という結果でした。

年代別では「60代36%」「50代24%」「70代19%」で、今年も50代・70代で参加者のおよそ8割を占めています。

女性の方や若い人の参加があれば、話し合いもさらに深まるのではないのでしょうか。

〈参加回数について〉

「初めて」が19%、「2回〜5回」が38%、「6回以上」が42%という結果でした。集落によっては、参加者の固定化が見られるようですが、全体的に見ると、新しい方の参加も多くあります。

〈話し合いの内容について〉

「とてもよかった11%」「よかった70%」「あまりよくなかった11%」「よくなかった1%」という結果でした。昨年に比べて、「とてもよかった」と回答された方が、17ポイント減っています。また、肯定的な評価も10ポイント減少しています。この結果をしっかりと分析してみる必要があると思います。

〈話し合いへの参加について〉

67%の方が肯定的な評価でした。あまり参加できなかった、参加できなかったと回答された方は、31%でした。今年のプログラムは、推進者の説明が多く、その結果ではないかと考えます。

〈自分を振り返って〉〈感想から〉

「とても参考になった12%」「参考になった66%」「あまり参考にならなかった13%」「参考にならなかった2%」という結果でした。78%の方が肯定的な評価をしておられますが、昨年に比べて7ポイント減っています。

今年は、「内容が難しかった」「テーマが難しくて意見が出しにくかった」という感想も多くありました。

その中で、「その時代や環境によって、物の見方・考え方は変化するものと分かりました。話の途中で、こんな風に集まって、みんなが『ちよこつとだけ幸せになるために』と話し合いが出来るのも、幸せだからできることと言われた方がありました。(中略)小地域に参加して、いろんなことに毎年気づかされるのがたくさんです」という感想もあ

りました。紹介しておきます。

アンケートの詳しい内容、分析は、大山町同推協の広報誌「ぬくもり」24号でお知らせする予定です。



©岡崎正人



落合恵子さんから児童図書の寄贈

大好きな一冊に出会っていただけたら・・・

平成26年度大山町人権・同和教育研究大会の講師にお招きした落合恵子さんから今年も、児童図書約100冊を寄贈していただきました。人権交流センターで貸し出ししています。